

サクッと学べる 「歯科×食」の健康講座

～ 歯科診療に食事相談を組み込むことで実現する 健康について楽しく解説します ～

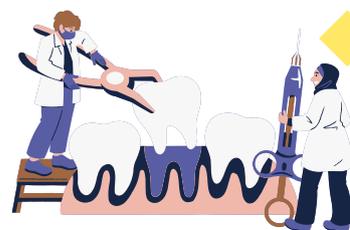


抜歯後の口腔管理

「抜歯」と一言で言っても、どの部位にどのような状態にある歯を何本抜いたかによって、その後の口腔機能に及ぼす影響は様々です。また、患者さんの既往歴や服薬内容・栄養状態によって抜歯後の出血や感染リスクは大きく異なるため、必ずしも教科書通りの治癒過程を辿るとは限りません。したがって、トラブルを避けるためにも抜歯後の①出血・②疼痛・③感染管理・④食事管理には十分に配慮する必要があります。

抜歯後の配慮

①出血 ②疼痛 ③感染管理 ④食事管理



抜歯によって喪失した歯の部位や残存歯との関係によって食事に影響が出ることも懸念されるため、術後の食事指導も忘れてはいけません。なぜなら、喪失した歯によって食べ物を噛み切る、切り裂く、すりつぶすという機能が低下すると食塊形成しにくい食物が出てくるからです。また、治癒過程では食事時に出血や疼痛を伴うこともあり、満足のいく食べ方ができず、つつい栄養も偏りがちです。「軟らかいものを食べといて！」では患者さんも困ってしまいます。



軟らかい食形態の食事はエネルギーをはじめとする各種栄養素が不足しがちであるという特徴もあります。補綴治療に至るまで、限られた期間かもしれませんが、抜歯後に変化した食べ方について、物性のみならず栄養バランスも考えた食事指導が歯科にも求められます。

記事

長谷剛志先生

公立能登総合病院 歯科口腔外科 部長